

先代からのメッセージ

☺ 神の湯本館 1階脱衣室



床板の墨書



敷居の墨書



神の湯脱衣室 解体状況



二ノ湯(明治時代頃)

神の湯本館の脱衣室の床板を解体したところ、建設当時の神の湯の浴室の壁板を再利用したと考えられる墨書が見つかりました。神の湯本館の浴室は明治27年(1894)木造で建設されましたが、昭和10年(1935)に鉄筋コンクリート造に改築され、それまで使用していた木造の浴室の壁板や柱を脱衣室の床や敷居として再利用されていることがわかりました。

☺ 神の湯本館 2階休憩室



畳撤去状況



湯釜の墨書

神の湯男子浴室の湯釜の墨書



湯釜(神の湯)



神の湯休憩室(明治時代頃)

畳を撤去したところ、床板から多くの墨書が見つかり、その中に神の湯男子浴室の湯釜の墨書が見つかりました。明治27年(1894)神の湯本館建設時の湯釜の墨書と考えられ、墨書の多くが文字である中、図柄が描かれているのは大変貴重です。

☺ 神の湯本館 屋根



瓦解体後



土居葺

神の湯本館の瓦の下地は土居葺という木を薄く裂いたものを使用しており、現代の防水シートと同じ役割を持っています。通称はトントン葺と呼ばれ、板を釘でトントンと打ちつける音が由来と言われています。今では土居葺ができる職人は少なく、明治時代の職人の技を見ることができるのは大変貴重です。



湯釜紹介

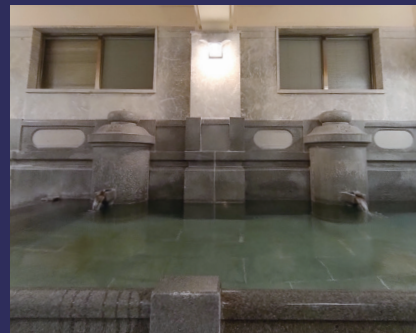
はじめは奈良時代から使用されていたと伝わる道後温泉の石製の湯釜は他の温泉地では見られない独特の趣があり、道後温泉の魅力の一つです。現存する13の湯釜について、歴史的価値などを紹介していきます。



第7回

霊の湯 湯釜(男子浴室)

明治32年(1899)に霊の湯の湯釜(直径70cm、高さ180cm、3段重ね)として設置されました。1つの浴槽に2つの湯釜を設けているのは、建築当初この浴室は男女に分かれており、それぞれの浴室で使用していました。昭和61年(1986)に鉄筋コンクリート造に改築したことにより今まであった間仕切りを取り除き今の形とし、湯釜は建築当初のままその場所に残り現在の姿となりました。その間仕切りは現在、松山市東消防署(本館から西へ徒歩3分)の花壇の石として再利用されています。2つの湯釜ともに、頂部には宝珠を配し、3段目には「霊」の字が大きく刻印されています。当時の文部大臣であった樺山資紀の揮毫によるものです。向かって右側の湯釜の側面には「明治三十二年己亥六月」、左側の湯釜の側面には「從二位伯爵樺山資紀」という文字が刻印されています。



- 補助事業名/ (重文)道後温泉本館神の湯本館ほか7棟建造物保存修理事業
- 補助事業費/ 国重要文化財等保存・活用事業費補助金
- 施工者/ 門屋組・成武建設・富士造型特定建設工事共同企業体
- 監理者/ 文化財建造物保存技術協会

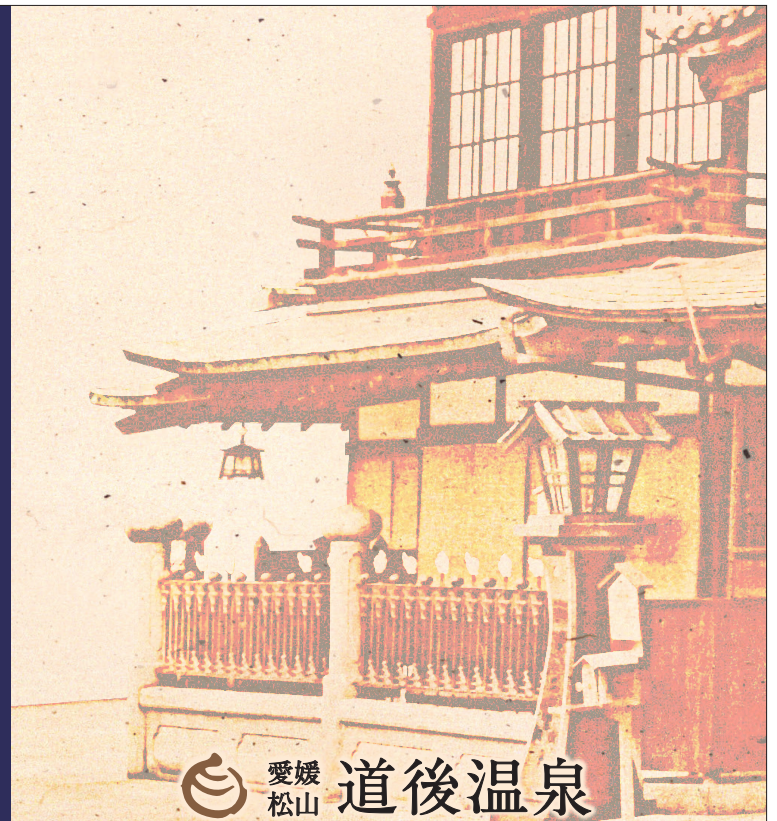
道後温泉本館は、霊の湯で入浴できます。

※神の湯(男・女)、2階・3階休憩室は休止しています。
※営業時間や入浴料など、詳しくは「道後温泉公式サイト」をご覧ください。

■お問い合わせ先
〒790-0842 松山市道後湯之町4番30号 道後温泉事務所 TEL.089-921-5141



[道後温泉公式サイト]
<https://dogo.jp>



愛媛 松山 道後温泉

歴史をつなぐ 未来へのこす

重要文化財
道後温泉本館 保存修理工事



第7号 令和4年(2022年)7月



詳しい作業の様子は動画で公開しています

道後温泉本館の紹介

修理中



神の湯本館棟

明治27年(1894)竣工。
 棧瓦及び銅板葺の木造
 3階建て、1階に浴場、
 2階・3階を休憩室とし、
 入母屋造の大屋根の上に
 塔屋を設けています。

ゆしんでん たま ゆ
 又新殿・霊の湯棟

又新殿の観覧・浴室
 営業中

明治32年(1899)竣工。
 日本唯一の皇室専用浴
 室のある又新殿・霊の湯
 棟は、銅板葺及び檜皮葺
 の木造3階建て、正面(東
 面)に御成門があります。
 (※1階で入浴できます)



浴室のみ
 営業中

修理中



南棟

大正13年(1924)竣工。
 養生湯として建築され、
 神の湯本館と同じく、棧瓦
 及び銅板葺。修理前は、
 神の湯女子浴室として使
 用していました。
 (※1階で入浴できます)

玄関棟

修理中



大正13年(1924)竣工。
 神の湯、霊の湯、養生湯の各
 浴室に入浴できるようにするた
 め出札口として建設されました。
 昭和10年(1935)の神の湯を
 曳家した時に現在の玄関棟と
 しての役割に変わりました。

明治27年(1894)の改築以降、大正、昭和、平成、そして令和、時代とともに
 輝き続ける道後温泉本館。営業しながらの重要文化財の公衆浴場の保存
 修理工事は、日本初の取組です。

後期工事のはじまり

神の湯本館などの解体工事がはじまりました。
 解体状況の様子をご紹介します。



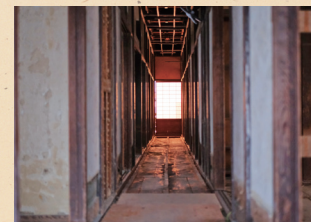
神の湯 浴室



神の湯 脱衣室



神の湯 2階休憩室



神の湯 3階休憩室



後期工事 外部足場



振鷲閣



坊っちゃんの間

保存修理工事は使える部材を可
 能な限り使用するため、釘など1本
 1本丁寧に取り外していきます。
 また、解体工事と並行して、実測
 調査を行います。道後温泉本館の
 現在の様子や痕跡・墨書などを細か
 く記録することで後世に引き継いで
 いきます。

神の湯本館の瓦解体の様子



修理前



瓦の解体状況



瓦解体後



鬼瓦解体状況



菊間瓦と鬼師の刻印

人がつなぐ 担当者の声【土工職人】

Q. 工事で大変だったことは？

A. 掘削は基本的に狭い場所での作業になりますので、
 掘削する際の範囲や搬出ルートなどを細かく考えて作業
 を行いました。また、大きな石などの搬出の際は、機械が
 入らないためジャッキ等の器具を使用するなど人力での
 作業となり大変でした。



詳しい作業の
 様子は動画で
 公開しています

株式会社伊藤組
 土工職人
 青木 和彦さん



中央廊下掘削の様子



浴室掘削の様子



道後温泉本館 保存修理工事 スケジュール

平成30年度～令和6年度
 (予定)

	平成30年度(2018)	令和元年度(2019)	令和2年度(2020)	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)
素屋根工事		組立	前期工事	移動		後期工事	解体
神の湯本館棟	入口切替			内部・屋根解体調査		構造補強・屋根葺替・内部組立	
又新殿・霊の湯棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立				
南棟		内部・屋根解体調査	屋根葺替・内部組立	内部・屋根解体調査		構造補強・屋根葺替・内部組立	
玄関棟		内部解体調査		屋根解体調査		構造補強・屋根葺替・内部組立	
事務所棟				内部・屋根解体調査		構造補強・屋根葺替・内部組立	
便所棟		解体		改築			
本館周辺整備	埋設物調査		塀復旧				石柵復旧

★現在 R4.7月時点

入口切替予定★

12月
 未完了
 予定